

令和 6年 8月「月報」

1 はじめに

2023年度の自衛官採用者数が陸海空3自衛隊で9,959人であり、募集計画に対する達成率が過去最低、前年比15ポイント減の51%だったことが公表されました。

「一般曹候補生」は前年比19ポイント減の69%、「自衛官候補生」は前年比13ポイント減の30%で、制度創設以来最低だったとのこと。

新たな力の入隊は、彼ら自身に能力を付与するだけでなく、教育に当たる隊員の実力を向上させます。教育終了後に部隊に配置されれば、配置先の若い隊員に、後輩を持つ喜びと後輩の手本となるべく努力する気持ちを持たせます。

それらが相乗効果を上げて、部隊の任務達成能力が向上します。

少子化もあり、景気の動向もあり、様々な困難がありますが、引き続き防衛意識の普及高揚から、隊員募集への協力を展開してまいります。 よろしくをお願いします。

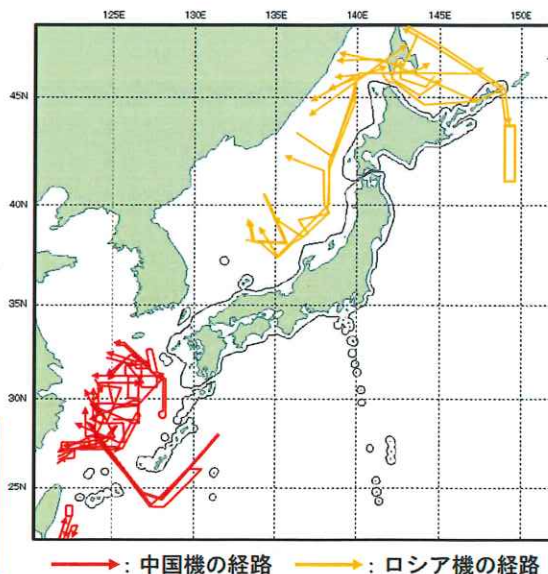
2 防衛省・自衛隊の活動（写真、図表は各幕、駐屯地・基地等HP等より。）

(1) 2024年度1四半期（2024年4月1日～6月30日）の緊急発進実施状況は159回であり、年度全体の緊急発進回数が高い水準で推移し始めた2013年度以降の実績から見れば平均的な水準にあると発表されました。

推定を含め、緊急発進回数の対象国・地域別の割合は、中国機約66%、ロシア機約33%、その他約1%、方面隊別では、北部航空方面隊が44回、中部航空方面隊が5回、西部航空方面隊が28回、南西航空方面隊が82回とのこと。

2024年度1四半期においては、東シナ海における中国の偵察／攻撃型無人機WL-10の初確認、中国無人機の長距離飛行や沖縄本島と宮古島の通過など、中国機による活発な活動を示す事例がみられました。

WL-10 →



- (2) 7月12日、防衛省は令和6年版防衛白書を公表しました。令和6年版防衛白書は、我が国を取り巻く安全保障環境や、戦略3文書を踏まえて進めている防衛力の抜本的強化のための防衛省・自衛隊の取組を、分かりやすく理解できるよう、令和5年度の事象を中心にまとめられています。また、小中高生にも、安全保障について理解を深めてもらうべく、防衛白書の内容を分かりやすくコンパクトにまとめた「まるわかり！日本の防衛」も同時に公表されました。

詳しい記事が「おやばと9月号」に掲載されます。

- (3) 陸上自衛隊は7月28日から8月7日までの予定で、西部方面隊と第3海兵機動展開部隊により、国内における米海兵隊との最大規模の実動訓練「レゾリュート・ドラゴン24」を開始しました。大分県の日出生台演習場をはじめ、石垣島等、広域に展開して訓練し、日米の連携強化及び共同対処能力の向上を図ります。



大分県家族会が歓迎の横断幕設置↑

- (4) 海上自衛隊掃海隊群は、6月21日から27日まで、硫黄島周辺海域で実機雷処分訓練及び掃海特別訓練を実施しました。

精悍
壮観
掃海部隊



処分艇発進



浮遊機雷処分

- (5) 航空自衛隊は6月30日から8月13日にかけて、オーストラリア北部のダーウィン空軍基地で開催される共同演習「ピッチ・ブラック24」に参加しています。参加部隊は第8航空団（築城）、警戒航空団（浜松）で、F-2A 戦闘機×6機、E-767 早期警戒管制機×1機、人員約230名が派遣されています。

- (6) 山形県酒田市及び最上郡戸沢村等における大雨に係る災害派遣

7月25日からの山形県等における大雨に関し、山形県知事から第6師団長に対し孤立住民の人命救助に係る災害派遣要請があり、陸上自衛隊第20普通科連隊基幹の約500名態勢で人命救助活動等を実施しました。

【主な活動部隊】

第20普通科連隊、第6後方支援連隊、第6施設大隊、第6通信大隊、第6情報隊、第6偵察隊、第6飛行隊、東北方面航空隊、空自秋田救難隊、空自新潟救難隊

【主な活動】

航空機及び地上部隊による情報収集活動、航空機及び地上部隊による人命救助活動、地上部隊による行方不明者捜索活動、自力移動が困難な高齢者等の、避難所や病院等への避難支援活動、物資輸送支援活動、道路啓開活動、排水機場の復旧支援活動

等

3 家族会の活動トピック

(1) 自衛官候補生等修了者を激励



修了式（青森県）



新山口駅で旅立ちを見送り（山口県）

(2) 第22次派遣海賊対処行動支援隊を激励

7月22日、栃木県古橋会長が宇都宮駐屯地で警衛隊長、警衛隊最先任と懇談・激励しました。見送りでは派遣されるお父さんが見えなくなるまで手を振っていたものの姿が見えなくなると泣き出す弟と、唇をかみしめて立派な敬礼で見送る兄といった光景が見られたとのこと。お父さんが任務を終えて帰国する半年後の成長が楽しみ。

(3) 福井県自衛隊家族会が艦艇広報に参加

7月7日、福井県家族会が福井港（坂井市）で行われた艦艇広報行事で、自衛隊グッズや飲料水の販売などで来場者とのふれあい活動を展開しました。

福井港では潜水艦「そうりゅう」と多用途支援艦「ひうち」、航空自衛隊の地対空誘導弾ペトリオット、陸上自衛隊からは軽装甲機動車が展示され、午前9時から始まった見学会は県内外からの家族連れなど4千人を超



える見学者で賑わいました。目玉は福井港に初めて入港した潜水艦です。さすが潜水艦だけあって、通常潜っていることからその行動もわからないとされていますが、どの型の潜水艦が来るのかは、前日の新聞で初めて知るという次第でありました。当日は暑い中、会場内での誘導や案内、駐車場での交通整理など、多くの若い隊員一人ひとりが任務を着実に

遂行し、事業全体の運営にしっかりと寄与していることが伺え、頼もしい限りでした。

(4) 7月19日、高知県家族会は高知新港で一般公開された海自輸送艦「しもきた」の

入港を歓迎・激励しました。



猛暑の中県内外から訪れた4千人以上の観客で長蛇の列ができる中、高知県家族会女性部が売店を開設して自衛隊グッズ等を販売し、高知地方協力本部の艦艇広報及び



自衛官募集に協力しました

(5) 川越市家族会が空自熊谷基地を研修

7月4日、川越市家族会12名が空自熊谷基地を研修しました。本研修は、家族会の会員である、空自第4術科学学校長兼熊谷基地司令の秋元空将補のお勧めにより実現したもので、摂氏35度の猛暑の中を匍匐前進する訓練中の



学生を目の当たりにし、秋元司令を囲んでの会食の他、訓練中の学生と参加した父母との対面、給養隊員と参加した母親との対面等、基地司令をはじめ、広報班二宮室長、松田中隊長ほかのご配慮で有意義な研修となりました。



(6) 家族支援協定締結

7月19日、山口市において、山口県の海上自衛隊（岩国航空基地、小月教育航空群、下関基地隊）、山口県自衛隊家族会、山口県隊友会の5団体による「隊員家族支援に対する協力に関する協定」締結式が開催され、5団体の代表による協定書署名が行われました。

今回の協定締結により、山口県自衛隊家族会は、県内にある陸・海・空各自衛隊基地全てと締結が完了しました。



(7) 本部事務局 募集広報に協力

7月22日、防衛省市ヶ谷地区厚生棟で募集広報のチラシを配布しました。チラシは隊員募集特に自主募集に焦点を当てたランチョンマットで、ランチ時に拡げて読みながら食事して貰おうというものです。

「この夏、身近な人に自衛隊を進めてみませんか？」
前途有望な若者に是非入隊してもらいたいものです。



(9) 自衛隊家族会「問い合わせ窓口」の集計結果（月間報告）

7月の「問い合わせ」件数は、各自衛隊担当者が対応した実績は、0件、有りませんでした。

ただし、事務局で対応を終了したものは12件に及びました。

（先月までは本集計結果に含めておりませんでした事務局対応分も、今月からお知らせすることに致しました。ただし、件数がいきなり突出することになる為、データの連続性を考慮して、当面は別途の数値とさせていただきます。）

事務局処理の件数とは、事務局に多忙な事務処理の中で突然問い合わせが入り、それを自衛隊OBである事務局員が、かつての勤務の中で得た知見等をもって対処し得た相談の件数を言います。

この事務局での第一段の仕分けによって、もう少し時間を掛けた対応が必要であると判断されたものを各自衛隊担当者に引き継ぎ、所謂「問い合わせ」件数にカウントされる問い合わせとなります。

(各自衛隊担当者は、本来の職務等を以ており、最初からの対応は不可能であり、また、各担当者の問い合わせ先を開示することは、個人情報の観点からも不適であることから、問い合わせ先を事務局に一本化し、この様な2段階の対応となっております。)

しかし、事務局対応であるからと言って軽々に処理して良いはずもなく、今月を例にとれば、12件の中で、家族会会員からは1件のみであり、8件は電話で対応したものでした。つまり、当初は、相手の素性も不明な中で、場合によっては自衛隊そのものを余り知悉していない相手と対応しなければならず、また、その様な相談相手に対して、場合によっては長い電話対応をしなければならないという神経を使う活動となっております。

つまり、この様な活動も本部は担っているということを本月の月報ではお知らせ致したく紙面をお借りしました。

【鍛冶総括相談員】

4 事務局からの連絡

- (1) オリンピックパリ大会柔道に出場した体育学校新添選手は個人戦で7位、混合団体戦ではセルビアのペリシッチ選手に一本勝ちし、勝利に貢献しました。
- (2) 防衛情報紙「おやぼと」は8月号から印刷写真が鮮明になりました。
クッキリ鮮やかな紙面をご確認下さい。

暑い毎日が続いております、皆様くれぐれも体調にお気をつけください。

以上

配布先

防衛省人事教育局長、文書課長、人材育成課長、厚生課長
統合幕僚監部総務部長、総務課長
陸上幕僚監部人事教育部長、募集・援護課長、同総括班長、厚生課長、家族支援班長
海上幕僚監部人事教育部長、人事計画課長、同募集推進室長、厚生課長
航空幕僚監部人事教育部長、厚生課長、厚生班長、募集・援護課長、募集・援護調整官、募集班長、
陸上総隊司令部総務部長、
各方面総監部人事部長、募集課長、厚生課長、各自衛隊地方協力本部長
各師団・旅団司令部幕僚長